

令和8年度 第1回
江戸川区ひきこもり支援協議会
議 事 録

江戸川区福祉部

令和8年度第1回江戸川区ひきこもり支援協議会

日 時：令和8年7月6日（月）午後2時30分から午後4時30分

場 所：グリーンパレス 集会室403

出席者：委 員 学識経験者、ひきこもり支援専門家、ひきこもり経験者の家族、
ひきこもり経験者、医療関係者、相談支援関係者、
町会自治会関係者、民生・児童委員、就労支援関係者、
居場所づくり事業関係者、江戸川区福祉部長
事務局 生活援護管理課長、ひきこもり施策係職員

議 事：1 江戸川区のひきこもり支援施策
2 ひきこもり支援施策実績報告
3 課題に対する取り組み

1 江戸川区のひきこもり支援施策

- ・事務局から江戸川区のひきこもり施策について、これまでの施策の流れ、現在の施策の概要などについて説明。

2 ひきこもり支援施策実績報告

- ・事務局から令和7年度に実施した施策の実績について説明。

【委員から出た意見】

- ・ひきこもり実態調査が相談につながる大きな契機だった。今後は周知強化（広報・区報・デジタル）が必要である。
- ・死亡ケースについては年齢層が高く身体疾患によるケースが多くとのことだが、ひきこもり当事者の自殺リスク等を念頭に関わる必要がある。
- ・広報えどがわ等紙媒体の周知が有効である。
- ・居場所を増やす提案（常設の追加、既存施設活用の拡充）や、就労体験の選択肢拡大（図書館以外の場所、民間事業者等）に関する提案が複数出された。

3 課題に対する取り組み

- ・ひきこもり実態調査から区が把握したひきこもりの状態にある方は10,132人だが、相談窓口と繋がった方はその13%にとどまる。区民のひきこもり施策に対する認知度も低い（令和5年度区民世論調査18%）。
- ・課題として、①区民の認知・理解向上、②実態調査でひきこもり「あり」と回答したが相談につながらない世帯への支援、③不登校生徒の義務教育修了後の支援（切れ目ない支援）。
- ・今後の取り組みとして①デジタルサイネージ・ポスター掲出等による周知啓発、②講演会のチラシにひきこもり相談窓口の情報を併記、③家族向け悩みチェックリスト・相談事例集作成、④学校現場（SC/SSW）との連携強化（研修等）などを検討している旨事務

局から説明。

【委員から出た意見】

- ・「支援拒否」の表現については、単に「拒否」とラベル化すると誤解を招くため、文言の見直し（例：「支援を必要としていない、あるいは受け取りたくない状態」等）や表現配慮が望ましい。
- ・民生委員を通じた情報共有や、地域の相談窓口（なごみの家等）経由での繋ぎ込みが有効である。
- ・チェックリストの内容については、文化・価値観差や多様な状況（入浴習慣の違い、収入・住居の問題、病気や虐待の可能性など）を含め、表現も肯定的・中立的に配慮することが必要。配布対象（家族向け）に合わせた文体・文字サイズ等の配慮も必要。
- ・不登校～義務教育修了後の支援の切れ目の課題については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに対する周知・研修、引継ぎ体制の構築を進めるべき。
- ・家族支援の重要性については、家族会や対話交流会の役割、当事者に直接会えないケースが多いため家族支援を充実させる必要がある。